

## 参考文献

- [1] Naishen Hsiao, Seiji Sato, Takafumi Arima, Satoshi Hagishima, Kyunghee Kim and Tatsumi Kamenno (1998) : Using computer graphics to compare the visual environments of urban streets in Japan and Taiwan, *Computers, Environment and Urban Systems*, Vol.22, No.3, pp.277-297.
- [2] 浅見泰司 (1998) : 合理的な道路斜線制限の必要条件, *都市住宅学*, No.21, pp.103-109.
- [3] 石富達郎, 川上光彦, 小林史彦 (2000) : 建築利用可能空間に対応した建築物モデルとそれをを用いた都市計画的コントロール, 2000年度日本建築学会大会学術講演梗概集, F-1分冊, pp.735-736.
- [4] 伊藤滋 (1964) : 銀座・日本橋地域における建築物容積と交通発生量, *都市計画*, vol.42, pp2-60.
- [5] 岩田規久男, 小林重敬, 福井秀夫 (1992) : 都市と土地の理論－経済学・都市工学・法制論による学際分析－, ぎょうせい.
- [6] 上杉啓, 真鍋恒博, 洪忠熹, 木村儀一, 河村壮一 (2003) : 図解テキスト基本建築学 第二版, 彰国社.
- [7] 大方潤一郎 (1987) : 容積地域制の成立経緯と容積率指定の根拠について, *日本不動産学会学術梗概集*, pp.29-32.
- [8] 大方潤一郎 (1997) : 容積率規制の理念と展開の方向性, *都市住宅学*, No.17, pp.14-22.
- [9] 大谷幸夫編 (1988) : 都市にとって土地とは何か, 筑摩書房.
- [10] 大場亨 (1995) : 容積率の実現の程度に地域地区や都市基盤が与える影響の分析, *都市計画論文集*, No.30, pp.571-576.
- [11] 大河原春雄 (1991) : 都市発展に対応する建築法令－改正の理由とその根拠－, 東洋書店.
- [12] 大橋雄二, 牧野恒一, 柳沢厚 (1999) : 建築法令キーワード百科, 彰国社.

- [13] 片倉建雄, 大西正宜, 建築法制研究会 (2003): 建築行政—法規と秩序を学ぶ—, 学芸出版社.
- [14] 河中俊 (1998): 建築物の規制・規制誘導手法による市街地景観形成に関する調査研究, 建築研究報告, No.136.
- [15] 金振仙, 田代順孝, 田畑貞寿 (1987): 低層高密度市街地における空地の変容と緑被空間び存在条件に関する研究, 都市計画論文集, No.22, pp.19-24.
- [16] 桑田仁 (1997): 街区を単位とした日照確保型形態規制手法に関する研究, 東京大学学位論文.
- [17] 建築技術研究会編 (2003): 基本建築基準法関係法令集 (2003 年版), 建築資料研究社.
- [18] 郷田桃代 (1996): 既成市街地における空隙の定量分析—東京の GIS データを用いたケーススタディー—, 都市計画論文集, No.31, pp.13-18.
- [19] 腰塚武志 (1978): 道路網と交差点, 都市計画, No.103, pp.36-41.
- [20] 腰塚武志 (1988): 棟数密度に関する理論的研究, 都市計画論文集, No.23, pp.19-24.
- [21] 腰塚武志, 古藤浩 (1989): 棟数密度による有効空地の推定, 都市計画論文集, No.24, pp.337-342.
- [22] (財) 日本建築センター (1993): 良好な市街地空間形成に資する建築規制のあり方に関する検討会, (財) 日本建築センター.
- [23] (財) 日本建築センター (2002): 平成 11 年度容積率充足に関する分析調査報告書, (財) 日本建築センター.
- [24] (財) 森記念財団 (1995): 現代社会に相応しい都市計画・建築制度のあり方—その 1—, (財) 森記念財団.
- [25] 斎藤圭 (2003): 日射エネルギー量・天空率を指標とした性能規定型建築形態コントロールの評価システムに関する研究, 芝浦工業大学学位論文.
- [26] 篠崎道彦 (1990): 街区・敷地計画における情報の記述と計画支援システムの研究, 東京大学学位論文.
- [27] 清水雄三, 原広司, 藤井明, 遠藤克彦 (1995): 街区集合からみた都市空間の分析, 1995 年度日本建築学会大会学術講演梗概集, F-1 分冊, pp.333-334.

- [28] (社)日本土地区画整理協会(2003):土地区画整理事業運用指針解説,(社)日本土地区画整理協会.
- [29] 杉原健一,ハンマード アミン,林良嗣(1999):3次元土地利用シミュレータの開発,第10回日本都市計画学会中部支部研究発表会論文・報告集,pp13-16.
- [30] 関田一郎,野村歓(1993):改正建築基準法による建築法規,理工図書.
- [31] 高瀬三郎(1971):建築基準法の集団規定と市街地環境,ジュリスト, No.481, pp.23-26.
- [32] 高見沢邦郎,藤原徹(1990):東京都区部における容積率の実現の程度に関する実態的研究,都市計画論文集, No.25, pp.529-534.
- [33] 出口敦(1990):高密度市街地における形態規制の評価に関する研究,東京大学学位論文.
- [34] 東京都(1965):東京都都市計画概要,東京都.
- [35] 東京都(2002):用途地域などに関する指定方針及び指定規準,東京都.
- [36] 東京都都市計画局(1996):東京の土地利用,東京都政策報道室.
- [37] 都市構造改革研究会(2003):都市再生と新たな街づくり事業手法マニュアル,エクスタレッジ.
- [38] 戸沼幸市,佐藤滋(1977):空地条件からみた密度の設定規準に関して,都市計画論文集, No.12, pp.1-5.
- [39] 中川享規,腰塚武志(2000a):斜線制限・敷地形態が建物形態に与える影響に関する研究,2000年度日本建築学会大会学術講演梗概集, F-1分冊, pp.245-246.
- [40] 中川享規,腰塚武志(2000b):敷地割の変更が建物形態に与える影響に関する基礎的研究,地理情報システム学会講演論文集, vol.9, pp.153-156.
- [41] 中川享規,腰塚武志(2001a):斜線制限のセットバック緩和の効果,2001年度日本建築学会大会学術講演梗概集, F-1分冊, pp.941-942.
- [42] 中川享規,腰塚武志(2001b):敷地割による斜線制限と容積制限の影響の違いー新橋・銀座・八重洲を事例としてー,都市計画論文集, No.36, pp.499-504.
- [43] 中川享規,腰塚武志(2002):建物形状と土地利用用途・建物面積との関係,2002年度日本建築学会大会学術講演梗概集, F-1分冊, pp.519-520.

- [44] 中川享規, 腰塚武志 (2003a): 棟数密度と街区容量との関係について, 2002年度日本建築学会関東支部研究報告集, pp.317-320.
- [45] 中西正彦, 中井煥裕, 斉藤千尋 (1996): 街区単位の建築物配置を目的とした壁面線コントロールに関する研究, 都市計画論文集, No.31, pp.523-528.
- [46] 中西正彦 (2001): 高容積化を目標とした住宅市街地における更新課程を考慮した街区内配置コントロール手法に関する研究, 東京工業大学学位論文.
- [47] 中村仁, 大方潤一郎 (1998): 都心住商混合地域における敷地統合の事業主体と住宅供給の関係について, 都市計画論文集, No.33, pp.775-780.
- [48] 野川浩生, 川上光彦, 小林史彦 (1998): 建築利用可能空間のモデル化と斜線制限緩和の影響評価, 1998年度日本建築学会大会学術講演梗概集, F-1分冊, pp.217-218.
- [49] 野澤康 (1993): 空地確保による街区環境の改善手法に関する研究, 都市計画論文集, No.29, pp.703-708.
- [50] 波多野憲男 (1994): 二段階区画整理の提案 都市農地と計画市街化との調整, 自治体研究社.
- [51] 服部誠, 青山吉隆, 中川大, 松中亮治 (2000): 敷地形状改善効果の計測理論に関する研究, 都市計画論文集, No.35, pp.385-390.
- [52] 早田幸, 首藤亮一, 佐藤滋 (1992): 街区を単位とした複合市街地の調和的再編に関する研究 (1) -容積率と住区の構成要素の変化に着目して-, 1992年度日本建築学会大会学術講演梗概集, pp.17-18.
- [53] 日端康雄 (1998): ミクロの都市計画と土地利用, 学芸出版社.
- [54] 深海隆恒 (1971): 容積率に関する基礎的研究, 都市計画論文集, No.6, pp.27-32.
- [55] 福島隆司 (1997): 都市の市場メカニズムと容積率制度, 都市住宅学, No.17, pp.23-29.
- [56] 堀内亨一 (1978): 都市計画と用途地域制, 西田書店.
- [57] 松本健, 大西隆 (1996): 都市基盤から見た東京の土地利用適正化に関する研究 -社会的コストの概念を用いて-, 都市計画論文集, No.31, pp.349-354.
- [58] 水島孝治 (1988): 土地の利用と制限, 時潮社.
- [59] 森清, 高谷俊臣 (1971): 市街地部における容積率の相関分析, 土木学会年次学術講演会講演集 第4部, Vol.26, pp.61-62.

- [60] 森本章倫, 中川義英 (1992) : 道路容量からみた適正容積率の設定に関する研究, 土木学会論文集, No.440/IV-16, pp.145-153.
- [61] 森本章倫, 古池弘隆 (1999) : 地区内交通流からみた容積率上限に関する研究, 都市計画論文集, No.34, pp.949-954.
- [62] 山崎俊一 (1980) : 容積規制と都市計画道路容量 (東京都区部), 都市計画, Vol.112, pp.57-62.
- [63] 李明勲, 大村 謙二郎, 石坂 公一, 糸井川 栄一 (1997) : 指定容積率の充足率と基盤状況の関係に関する研究, 都市計画論文集, No.32, pp.499-504.
- [64] 渡邊明拓・川上光彦・石富達郎 (2002) : 建築規制による建築利用可能空間・建築物のモデル化と高さ規制を用いた形態的コントロール, 2002 年度日本建築学会大会学術講演梗概集, F-1 分冊, pp.781-719.
- [65] 渡部 与四郎 (1954) : 街路・容積の相関現象について, 都市計画, Vol.9, pp.34-43.

## 謝辞

このような形で論文をまとめることができたのは、長きにわたり様々な形で周りの方々から援助や協力を頂いたおかげです。

卒業研究からの8年間ご指導して頂いた腰塚先生には、研究の難しさと楽しさを教えて頂きました。途中、自分を含めた家庭の事情について配慮して頂き、本当にありがとうございました。先生の叱咤激励によりここまでくることができました。

大澤先生には、研究における基礎能力の大切さを教えて頂きました。また、研究室での先輩としての立ち振る舞い方についても教えて頂きました。

鈴木先生には、折にふれ論文に対して助言を頂き、進捗状況など常に気遣って頂きました。東京都立大学の吉川徹先生には、学会等で貴重な助言を頂くとともに学位論文を送って頂き、論文を充実させることができました。

国土技術政策総合研究所の飯田直彦室長をはじめ研究員の方々には、建築行政面での本論文の大切さを教えて頂き、研究の励みとなりました。また実務レベルでの建築基準法や都市計画法の問題等を教えて頂き、また資料を提供して頂き、本当にありがとうございました。

研究室の先輩である明海大の三浦英俊先生、国土技術政策総合研究所の石井儀光さん、小樽商科大学の大津晶先生、鉄道総合研究所の田村一軌さんには、論文自体から些細なお願いまで親切丁寧に対応して頂きました。石井さんには、自身の仕事で多忙の中、いつも時間を割き、厳しく丁寧に助言をして頂き、感謝の念に耐えません。

筑波大学に入学して11年間で知り合うことができた大学・部活の友人、研究室の先輩・同輩・後輩など様々な方々と共有した時間・交わした議論は、私にとってかけがえのないものでした。特に同期の渡辺貴史君とともに論文を取り組みことができたことは精神的な励みであり、また気軽に様々な意見を言ってもらえる存在であり、大変感謝しています。

東京都都市計画局には、東京都都市計画地図情報システムのデータの使用を許諾して頂き、効率的に論文を進めることができました。

その他、大学在学中にとっても多くの方々の暖かい支援と励ましに、心から謝意を表します。

最後に、この11年間の学生生活を影ながら支えてくれた父 篤 と母 百合子に深く深く感謝します。

2004年1月 中川 享規